

食料安全保障と農業政策

キャノングローバル戦略研究所研究主幹
経済産業研究所・上席研究員
農学博士 山下 一仁

講義の構成

- ▶ 1. 世界の食料・農業事情
- ▶ 2. 日本のフードシステムとその特徴
- ▶ 3. 農産物の貿易と政策に関する国際規律
- ▶ 4. 食の安全と貿易
- ▶ 5. 日本の食料・農業政策の歴史
- ▶ 6. 日本の食料・農業政策の概要・特徴と農業への影響
- ▶ 7. 農業新技術と日本農業の可能性

農業はてな？その1



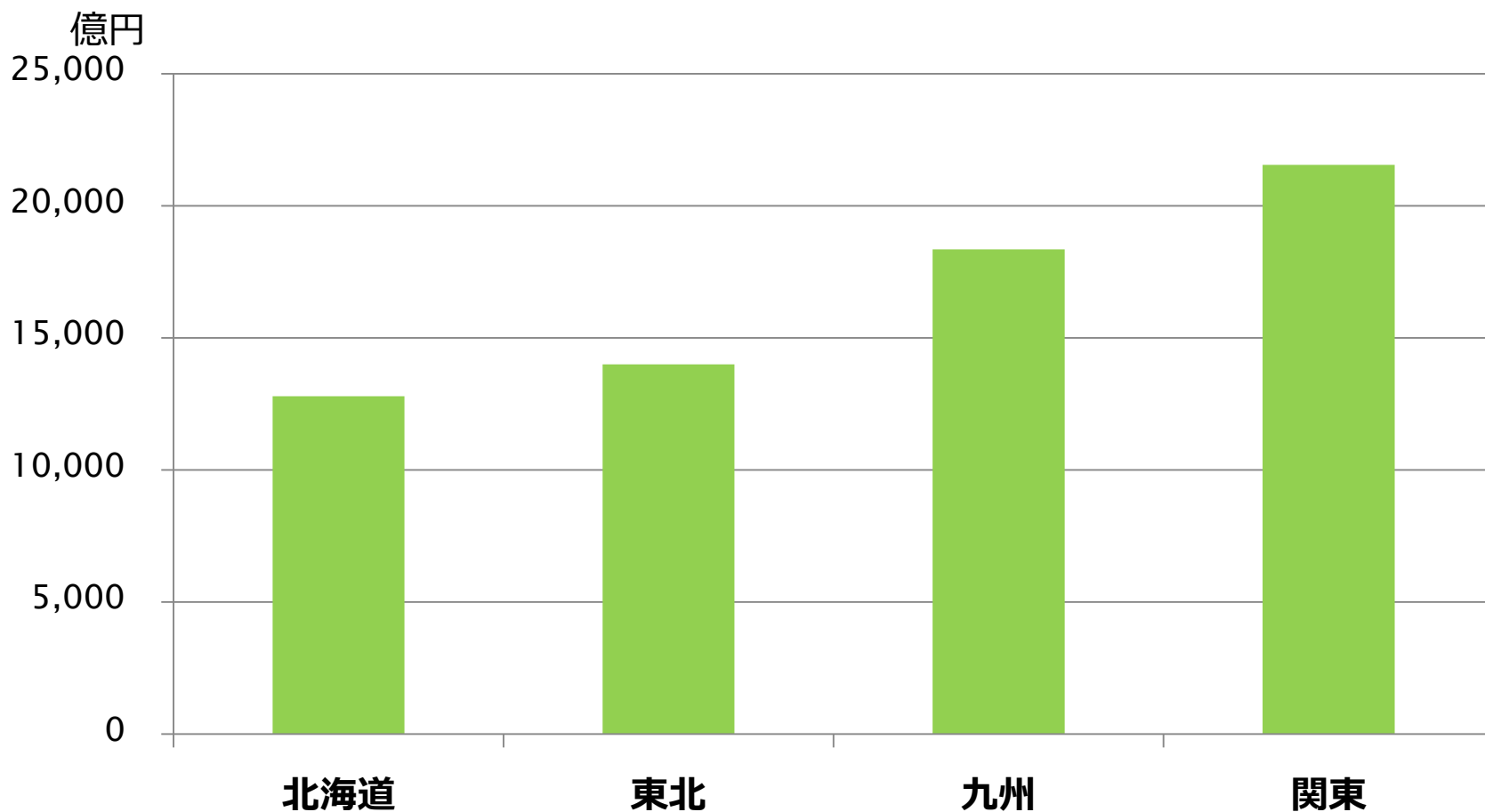
Q1. 日本の次の地域を農業生産額の多い順に並べなさい。

九州、 関東、 東北、 北海道

Q2. アメリカで一番農業生産額の多い州を選びなさい。

カリフォルニア、 テキサス、 アイオワ、 ネブラスカ、 フロリダ

農業はてな？ 回答編



農業はてな？その2



Q3. 世界最大の農産物輸出国はアメリカですが、10位までの過半を占めている地域があります。次から選びなさい。

ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ

Q4. 豪州は何位でしょう？世界最大の農産物輸入国は？

Q5. 牛肉の輸出国は、インド、ブラジル、アメリカ、豪州ですが、最大の輸入国は？

Q6. 以上のクイズからわかることは

- 1. 土地が大きいだけでよい？**
- 2. 農産物の貿易と自動車の貿易は違う？**

考えるということとは？



- ▶ 東京大学を一番で卒業する人は頭が良い？
- ▶ われわれの仕事には、問題文はない！
= **問題を見つけなければならない**
- ▶ われわれの仕事には、誰かが用意した答えがない！
= **答えを見つけなければならない**



Facts(data)
x Logic(theory)
x English

- ・誰もが信じていることは正しいか？
- ・関連するファクツを集める
- ・シンプルな質問を発する
- ・枝葉をとってみる

遺伝子組換え農産物(大豆の例)



- ▶ 各国とも自ら安全性を確認したものしか流通させていない

違うのは表示



アメリカ	表示の義務付けは一切不要 (近年修正⇒日本)	
日本	大豆	表示義務 (5%以下なら不要)
	豆腐	表示義務 (DNAが残る)
	醤油・大豆油	表示不要 (DNAが残らない)
EU	全ての農産物・加工品に表示義務	
オーストラリア・ ニュージーランド	日本と同様の規制	

日本農業は規模が小さく競争力はないので 関税が必要なのか？



農家一戸あたりの経営面積

日本 2.87ha	アメリカ 179.7ha	オーストラリア 4471.3ha		
1	:	63	:	1558

確かに、規模は重要だが……

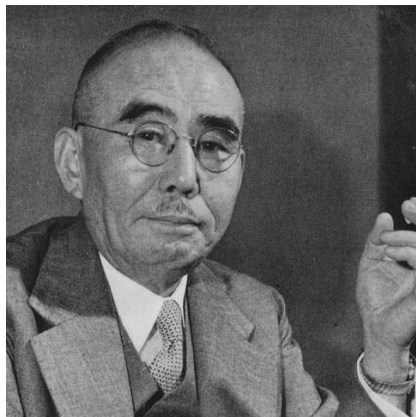
- ①土地生産性 = 作物や単収の違いを無視
(世界最大の農産物輸出国アメリカもオーストラリアの17分の1、オーストラリアの小麦単収は英国の4分の1以下)
- ②もっとも重要なのは品質の違い

石橋湛山（1884～1973）の農業論

第55代内閣総理大臣



- ▶ 日本の農業はとても産業として自立できない、故に農業には保護関税を要する。低利金利の供給を要する。（中略）政府も、議会も、帝国農会も、学者も、新聞記者も、実際家も、口を開けば皆農業の悲観すべきを説き、事を行えばみな農業が産業として算盤に合わざるものなるを出発点とする。



- ▶ 斯くて我農業者は、天下のあらゆる識者と機関から、お前等は独り歩きは出来ぬぞと奮発心を打ちくだかれ、農業は馬鹿馬鹿しい仕事ぞと、希望の光を消し去られた。今日の我農業の沈滞し切った根本の原因は是に在る。



富士山のような柳田國男（1875～1962）



東畑精一

「柳田氏の言論はまさにただ孤独なる荒野の叫びとしてあったのみである。だれも氏の問題意識の深さや広さを感じ得るものではなく、その影響を受けるだけの準備を持つものではなくして終わったのである。氏はこの意味であまりにその時代の農政学や農業経営学の問題意識や認識水準から高く距りすぎたのである」

農業は工業と違う？

東畑精一(1899~1983)の柳田國男評



- ▶ しかし、「柳田の説は変だと駒場(現在の東京大学農学部)の専門家が言われました。」(柳田1910「時代ト農政」序文)
- ▶ だれも、農村・農民・農業は、他の社会・商工業者・他産業とは、いかに同一性格を持つかの大本を知ろうとしないで、差異を示し特殊性を荷っているかを血まなこに探し求めるに過ぎなかった。どうして柳田國男を理解し得よう。「あれは法学士の農業論にすぎない」のである。(東畑精一1973農書に歴史ありP80)

本講義の目的

- ▶ イギリスの著名な経済学者だった故ジョーン・ロビンソン・ケンブリッジ大学教授の有名な言葉～「経済学を勉強するのは、経済学者に騙されないようにするためだ」。
- ▶ 原子力村と同じく農業村がある。農政学や農業経済学を学ぶのは、農林水産省、JA農協、農業経済学者などの農業専門家に騙されないようにするため。そして正しい政策を作るため
- ▶ 農業経済学の碩学の遺言～「山下さん。農業をダメにしたのは農業経済学者だということを声を大にして言ってほしい」

農業の謎

- ▶ “農業就業者や農家戸数が大幅に減少するのに、なぜ農協の組合員は増加し続けるのか？”
- ▶ “農業就業者は農家に二人くらいいるはずなのに、今ではその数が農家戸数を下回っているのはなぜか？”
- ▶ “食料自給率向上や食料安全保障を叫ぶ農政が、なぜ米の減産や水田の減少につながる減反を推進するのか？”
- ▶ “農業が衰退するのに、なぜ農協は日本第二のメガバンクに成長するなど、繁栄するのか？”
- ▶ “農業は衰退し、また、農業人口は減少しているのに、なぜ農協は大きな政治力を持つのか？”

農業に関する“常識”や“通念”(1)

- ▶ 「農村のほとんどの人は農家だ。」
- ▶ 「農業人口が減るのは問題だ。」
- ▶ 「農業の規模が小さくて、農業だけで食べていけないから、兼業せざるを得ない。」
- ▶ 「兼業農家が日本農業を支えている。彼らは、兼業収入を使って、高額の農業機械を購入してまで、コメ作を継続している。兼業農家がいなくなれば、農業生産は縮小し、食料安全保障は確保できない。」
- ▶ 「自然に影響される農業は、工業とは違う。だから保護が当然だ。」
- ▶ 「生協と同じように、農協は農家が自主的に作った農家のための組織だ。」
- ▶ 「石油がなければ農業はできない。食料安全保障の主張は間違いだ。」

農業に関する“常識”や“通念”(2)

- ▶ 「食料自給率が40%を切っているということは、6割の食料を海外に依存しているということだ。食料自給率は上げなければならない。」
- ▶ 「関税がなくなると、農業は壊滅し、食料自給率は低下する。」
- ▶ 「アメリカは食料を戦略物資として使う。だから高い関税で国内農業を保護するのは、国民のために当然だ。」
- ▶ 「輸出国に対して、輸出禁止などの行為を国際的に規制することは、日本のような食料輸入国にとって重要だ。」
- ▶ 「穀物の国際価格が上昇しているので、日本の食料安全保障は危なくなる。だから農業保護を高めるべきだ。」

農業に関する“常識”や“通念”(3)

- ▶ 「コンニャクの関税が2000%近いのは、多くの総理を輩出している群馬県の政治力のためだ。」
- ▶ 「農地が耕作放棄されるのは農家が高齢化しているからだ。」
- ▶ 「農業者が高齢化しているので、農業は人手不足になる。」
- ▶ 「企業の方が農業を上手にできる。積極的に企業参入を進めれば、農業は活性化する。」
- ▶ 「規模拡大が進まないのは、先祖伝来の農地なので、零細な農家が農地を貸したがないためだ。」
- ▶ 「日本の農業は、土地が少なく、規模も小さいので、アメリカやオーストラリアの農業とは競争できない。だから、関税で保護して当然だ。」

農業に関する“常識”や“通念”(4)

- ▶ 「規模を拡大しなくても、農業は付加価値を増やすだけで十分国際的に競争できる。」
- ▶ 「日本の農業コストが高いのは、土地が少なく、その価格が高いためだ。(農政の責任ではない。)」
- ▶ 「規模の大きい農家は、化学肥料や農薬などをたくさん使う近代的な農業を行っているのに対し、貧しくて小さい農家は環境にやさしい農業を行っている。だから、小農は保護しなければならない。規模拡大による農業の効率化などとんでもない。」

多様な農業と特徴

- ▶ 穀物生産（米、麦、とうもろこし、大豆）
 - －土地利用型農業。食用であるとともに、畜産の飼料。
麦、大豆は加工が必要。
- ▶ 砂糖、いも等の畑作物
 - －土地利用型農業。加工との関係が重要。いもは生食用とでんぷん原料用。
- ▶ 野菜・果物・花
 - －土地をそれほど必要とはしない。生産物に多様性→高付加価値化の可能性、近年加工の比重増加。
- ▶ 畜産物
 - －酪農、肉用牛生産～本来は土地利用型農業（しかし、輸入飼料依存度上昇）。酪農は乳業と一体。
中小家畜（豚、鶏：ブロイラー、卵）～飼料穀物の加工品

われわれは今の農業・農村を知らない



望郷の“流行歌”は少ない。

戦前：誰か故郷を想わざるのみ

戦後：かえり船、異国の丘、ああモンテルパの夜は更けて
里の秋、岸壁の母

しかし昭和30年代“ふるさと”の歌が圧倒的。

別れの一本杉、リンゴ村から、夕焼けとんび、赤い夕陽の故郷、柿の木坂の家、お月さん今晚は、逢いたいなアあの人に、東京だよおっ母さん、南国土佐を後にして、僕は泣いちっち、あゝ上野駅、ふるさとのはなしをしよう、帰ろかな

→ 農業から工業へ、地方から都会へ、人口流出

→ **そのあとで農村は変わった**
(S39年 1 9 6 4 年新産業都市)



“おしん”で涙

リンゴとミカン

“リンゴの歌”に「リンゴ」はいくつ歌われている？



リンゴの歌

(1) 赤いリンゴに くちびるよせて
だまってみている 青い空！
リンゴはなんにも いわないけれど
リンゴの気持は よくわかる
リンゴかわいや かわいやリンゴ

(2) あの娘よいい娘だ 気だてのよい娘
リンゴによく似た かわいい娘
どなたがいったか うれしいうわさ
かるいクシャミも とんでてる
リンゴかわいや かわいやリンゴ

(3) 朝のあいさつ タペのわかれ
いとしいリンゴに ささやけば
ことばはださずに 小首をまげて
あすも またねと 夢み願
リンゴかわいや かわいやリンゴ

(4) うたいましようよ リンゴの歌を
ふたりでうたえば なおたのし
みんなでうたえば なおおたのし
リンゴの気持をつたえよか
リンゴかわいや かわいやリンゴ
サトウ・ハチロー

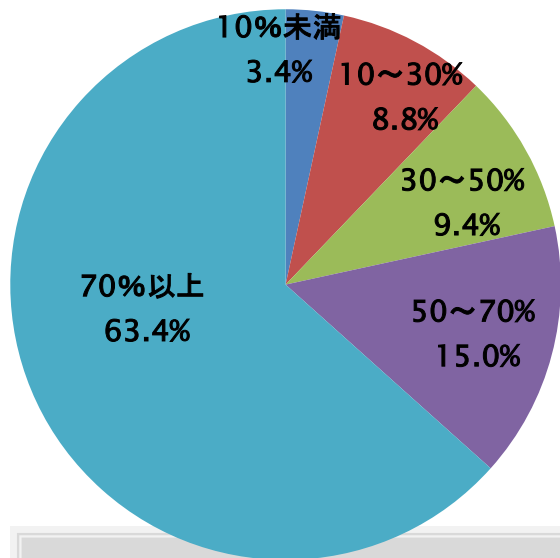
(55)

みかんの花咲く丘

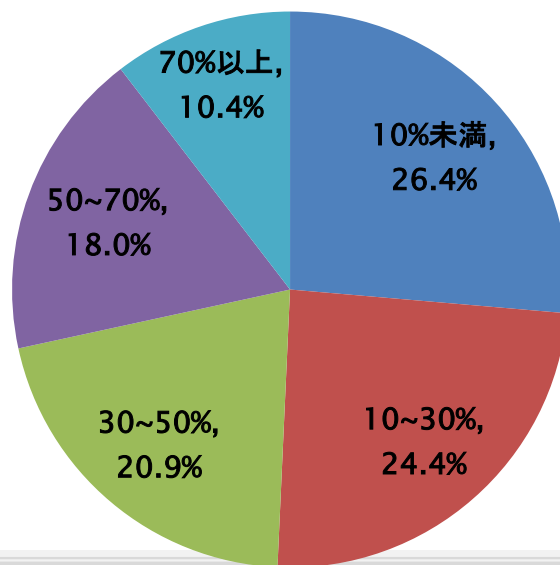
みかんの花が 咲いている
思ひ出の道 丘の道
はるかに見える 青い海
お船がどよよ かすんでる
思ひ横を ほきながら
お船はどよよ 行くのでしよう
波に揺られて 鳥のかげ
汽笛がボウと 鳴りました
いつかまた丘 夢さんと
いっしょに眺めた あの島よ
今日もひとりで見ていると
やさしい夢さん 思われる

農村は変わった 農家率別集落数の内訳

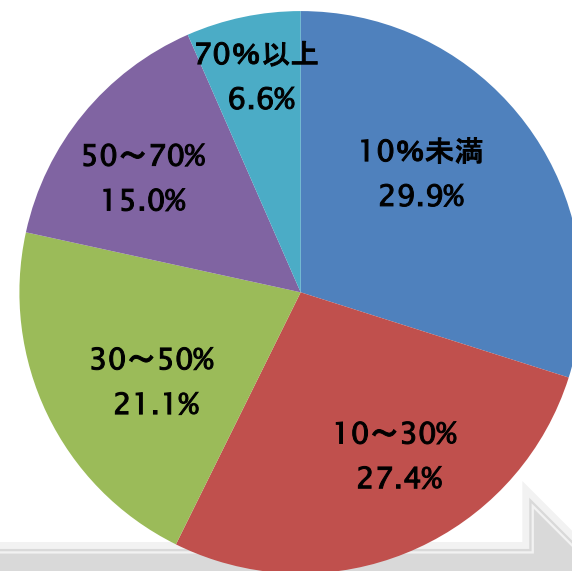
1970



2010

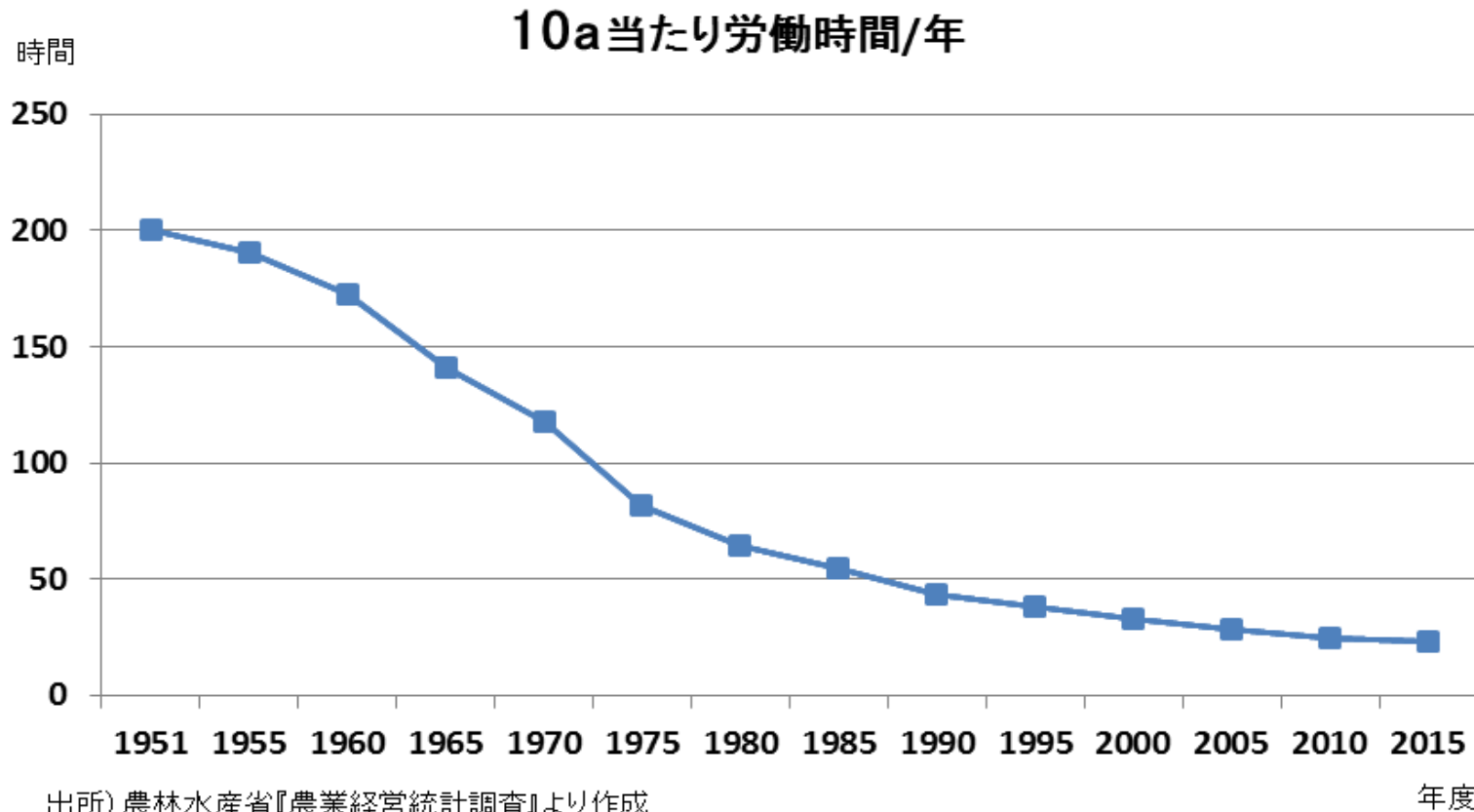


2015



農業は変わった

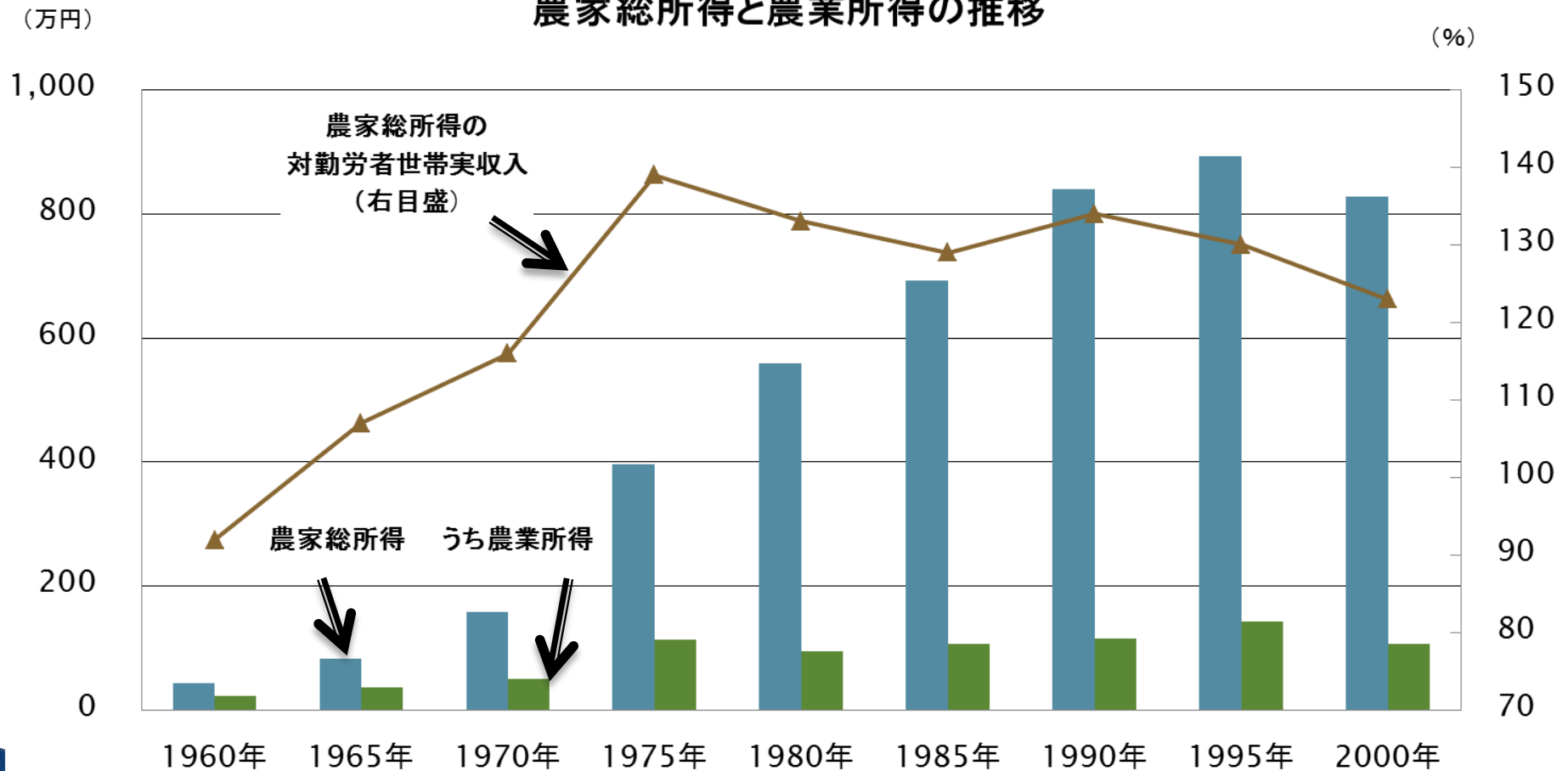
－米は八十八手間がかかる？－



1ヘクタールの米作に必要な農作業日数
1951年251日/年 ⇒ 2015年29日/年

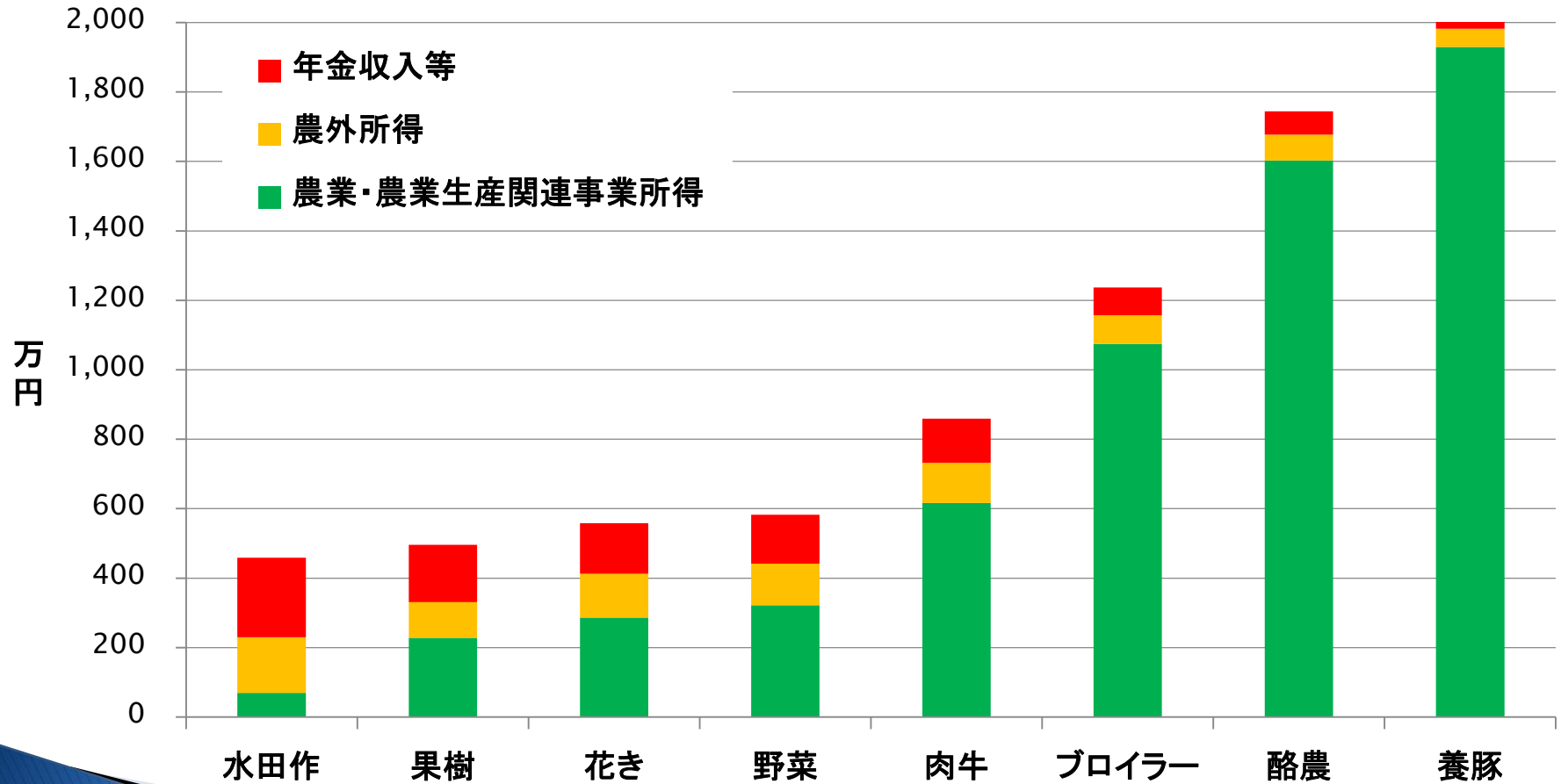
“「貧農層」は60年代終わりには消失” (農業経済史研究の暉峻衆三)

農家総所得と農業所得の推移



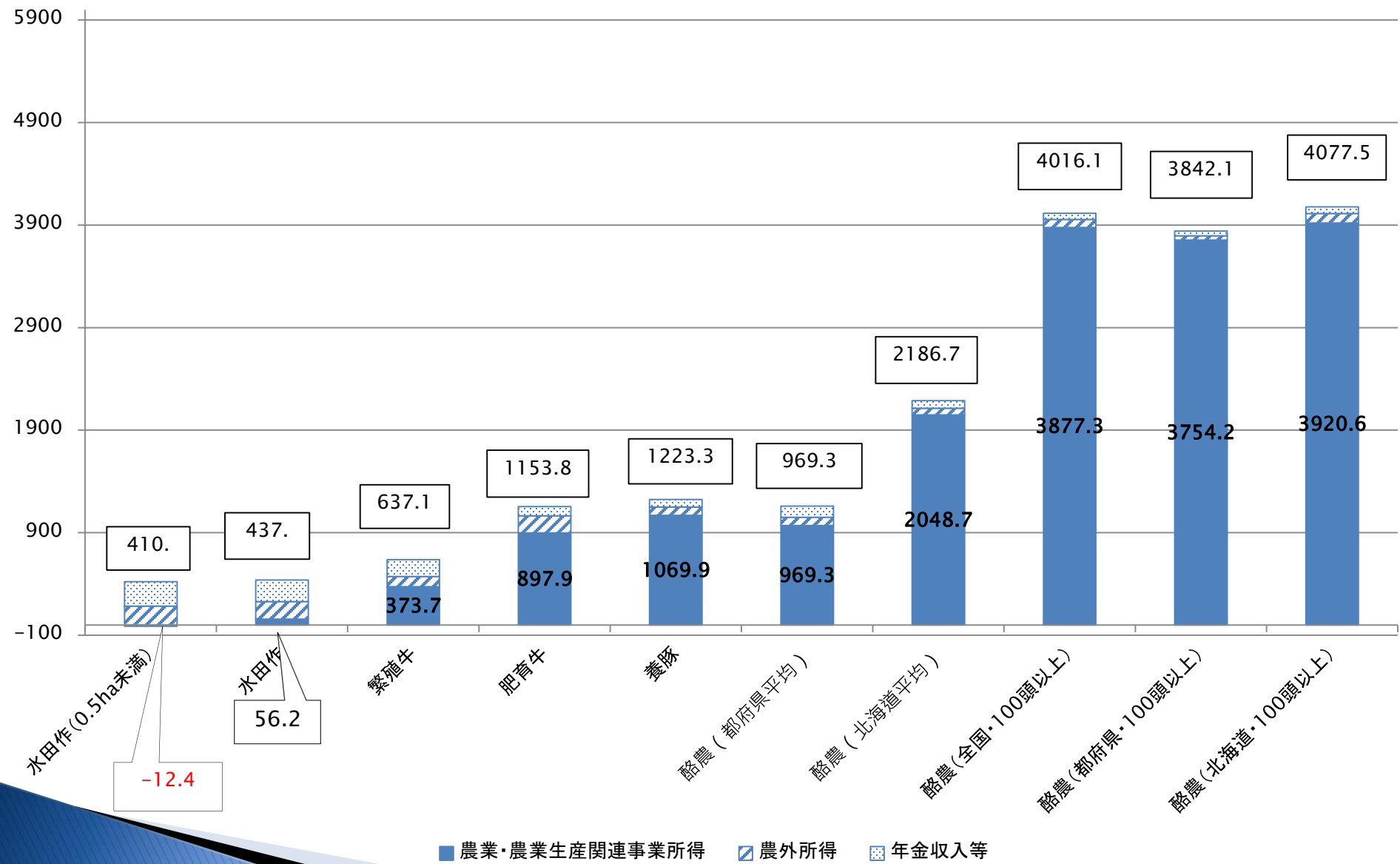
資料:「図説食料・農業・農村白書参考統計表 平成15年度版」、総務省「家計調査」

歪んだ米農業（2017）



営農類型別農家所得(2018)

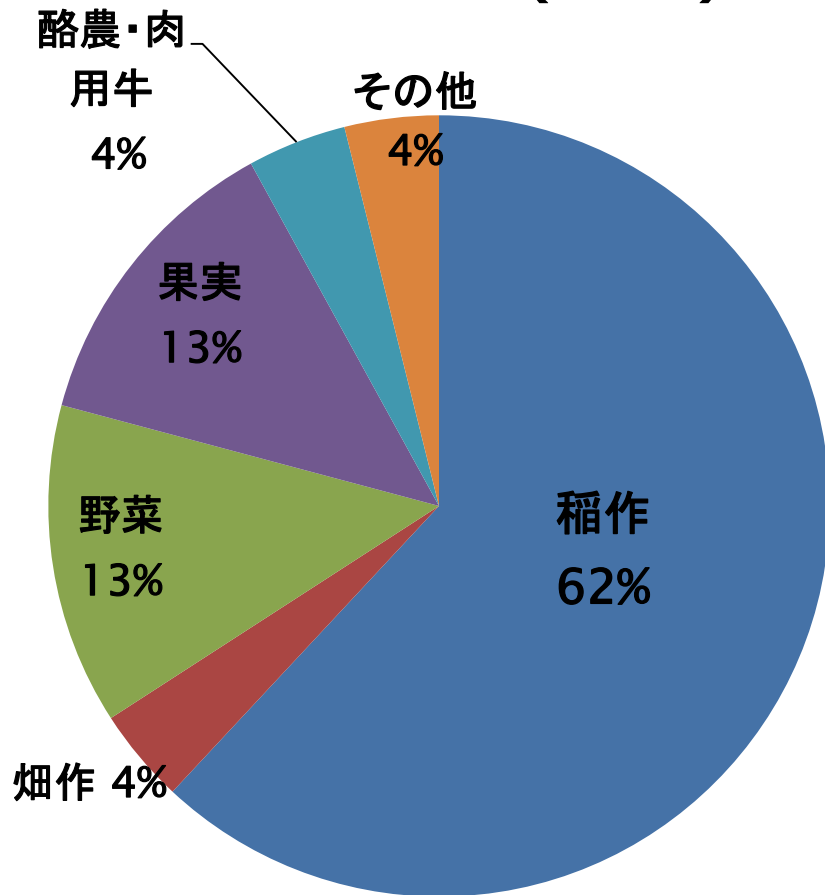
万円



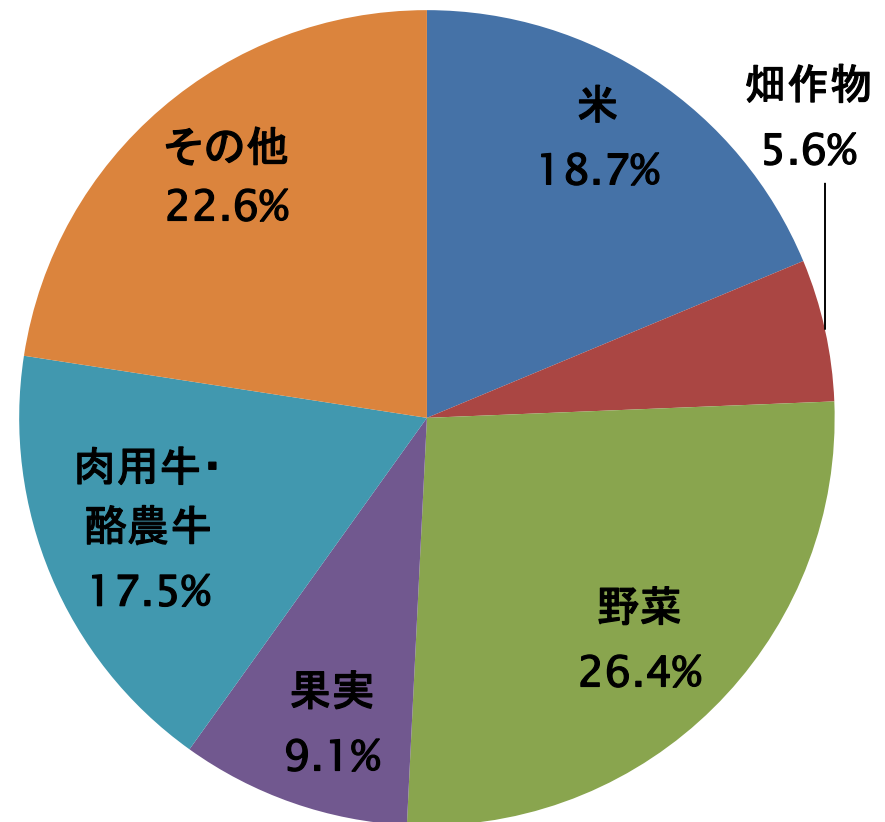
■ 農業・農業生産関連事業所得 ▨ 農外所得 ▩ 年金収入等

日本農業最大の問題

販売農家の内訳(2017)



農業総産出額の内訳 (2017)



参考文献

- ▶ 「いま蘇る柳田國男の農政改革」新潮選書
(2018年1月)
- ▶ 「TPPが日本農業を強くする」日本経済新聞
出版社2016年
- ▶ 「バターが買えない不都合な真実」幻冬舎新
書2016年
- ▶ 「日本農業は世界に勝てる」日本経済新聞出
版社2015年
- ▶ 「農協解体」宝島社2014年